

死を背負って生きる

2014年7月7日(月) 18:30~20:30

南山大学名古屋キャンパス R棟 フラッテンホール

柏木 哲夫氏

学校法人金城学院学院長
淀川キリスト教病院理事長
淀川キリスト教病院名誉ホスピス長
大阪大学名誉教授ホスピス財団理事長

1965年大阪大学医学部卒業。同大学精神神経科に3年間勤務し、主に心身医学の臨床と研究に従事。その後3年間、ワシントン大学に留学し、アメリカ精神医学の研修を積む。

1972年帰国し、淀川キリスト教病院に精神神経科を開設。翌年日本で初めてのホスピスプログラムをスタート。その後、同病院にて内科医としての研修を受け、1984年にホスピス開設。副院長、ホスピス長を経て、1993年大阪大学人間科学部教授就任(人間行動学講座)。淀川キリスト教病院名誉ホスピス長。大阪大学定年退官後2004年4月より金城学院大学学長。2012年4月より金城学院学院長。2013年9月より淀川キリスト教病院理事長を兼務。

1994年日米医学功労賞
1998年朝日社会福祉賞
2004年保健文化賞受賞



サマセット・モームが残した有名な言葉があります。「この世には多くの統計があり、その中には数字のまやかさも存在する。しかし、絶対に間違いがない統計がある。それは人間の死亡率は100%であるという統計だ」というのです。確かに人間の死亡率は100%、この世に生を受けた人は一人の例外もなく、死を迎えます。しかし、私たちは日常生活で、自分の死について余り考えないのではないのでしょうか。特に若い時は、やがて死ぬということは観念的にはわかっている、死は遠くにあるもの、すなわち生の延長上に死があると思っっているのではないのでしょうか。老人になって初めて死を身近に自覚するようになるのかもしれない。

私はこれまでにホスピスという場で約2500名のがん患者さんを看取りました。その経験から感じることは「人間は死を背負って生きている」ということです。「定年後、夫婦揃ってゆつくりと温泉へでも行きたいと思っっていた矢先に夫が癌で倒れました」と、ある中年のご婦人が言われました。私はこれに「矢先症候群」という名前を付けました。生の延長上に死があると思っっていたのに、実は死を背負って生きていたことがわかる訳です。

～ ご参加希望の場合は事前に下記までご連絡をお願いします。～

主催：南山大学 人間関係研究センター 〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18
Tel：052-832-5002 Fax：052-832-3202 E-mail: ninkan-c@nanzan-u.ac.jp
Webページ: <http://www.ic.nanzan-u.ac.jp/NINKAN/>
※上記WEBページにて24時間お申し込みができます。

※駐車場のご準備はございません。
※事務受付時間 10:00-16:30 土日祝日休み

【個人情報について】

今回ご提供いただきます個人情報は、南山大学個人情報保護に関する規程に基づき、適正な利用と保護および必要な安全措置を講じて参ります。1. 講演会に必要な事務連絡、2. 今後の本学公開講座ご案内(パンフレット送付等)、3. 当日受付簿作成以外の目的には使用いたしません。